

《痛みを乗り越える希望を持つこと》

ある天使が、天から降りて来て人々に言いました。「あなたがたに幸福をあげるから、みんな集まってほしい。」そして、その話を聞いた人が、更にたくさんの人に「あの天使が幸福をくれるそうだ。」と伝えたので、天使のもとには、どんどん人が集まって来ました。人々は、本当に期待を持ってその天使の前に来ました。天使の手には二つのものがありました。一つは「幸福」というザルで、もう一つは「不幸」というザルでした。集まった人々は、幸福のザルだけもらえれば自分達の目的は果たせると思ったので、天使の反対の手に「不幸」のザルまであるのはどうしてなのかと思いました。すると天使が、「あなたがたは本当に幸福になりたいのでしょうか？」と聞きました。「はい、そうです。」と人々が答えると、天使は「それならば、この二つのザルを両方受け取ってください。」と言いました。それを聞いた人々は、「私たちには、不幸というザルはいらないのです。幸福というザルだけください。」と叫びました。最後にその天使は、「あなたがたが本当に幸福になりたいと思ってここに来たのならば、この不幸のザルも受け取ってください。不幸のザルが分からなければ、幸福のザルの意味もなくなります。」と話しました。

今日は、皆様ご存知のように「悲しみの聖母」の祝日です。これはどういう意味でしょうか。人間的な目で見ますと、マリア様はこの言葉のとおり、本当に不幸な人間としてこの世に来て、不幸そのままに帰られた方かもしれません。しかし、彼女が示してくださったことは、彼女はあせったこともなければ、自分が呪われたと思ったこともありませんでした。み旨を伝えられた時、ただ心に留めて黙想する姿だけを見せてくださいました。母親にとって一番辛いことは、自分より先に息子を逝かせることだそうです。その痛みさえ、受け入れなければならなかったマリア様の心を考えてみますと、やはり私たちが感じている痛みは驚沢なものなのだ、という気がします。

今日の福音(ルカ 2・33 35)で、シメオン預言者によって「あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。」と預言されています。それは、刺し貫かれるくらいの痛みを感じます、という意味です。そしてイエス様には「この子は、反対を受けるしるしとして定められています。」と預言しています。この預言者から聞かされた話では、マリア様は最後まで、人間的に不幸に生きるしか方法がない、となります。「反対を受けるしるし」とは、どういう意味でしょうか。死ぬ時まで、敵として反対される人生を過ごさなければならぬ、ということです。そのような息子を見る母の心は、剣で心を刺し貫かれるような痛みをいただくだろう、ということです。

皆様、よく考えてみましょう。ある日よいことがあると、人間はすぐに感動します。「ああ、私にもこんなによい日があるのだな。」と。逆に何か不幸なことに襲われると、「いつも私はこんなに不幸で嫌だ。」と思います。でもよく考えてみてください。私たちは、正しくないことの中でこそ、正しいことの尊さ、大事さを感じることができるのです。幸いなことに、私たちは、正しさを分かるために本当によい環境の中で生きています。というのは、この世の中は、いつもマスコミや新聞で、「正義、正義」、「平和、平和」と言いながら、実際には自分達の欲を満たすために動いています。歌謡曲を聞いてみますと、たぶんその9割は愛を歌っているのでしょうか。それなのに私たちは、いつも愛の見えないところで生きています。ということは、私たちは、正しい愛、正しい正義、正しい平和の意味をよく悟れる、よく気づける環境で生きている、ということになります。

皆様、イエス様が見せてくださった真理はただ一つです。「あなたが本当に救われるためには、あなたに与えられたその痛みを抱きしめて乗り越えなさい。」という言葉です。誰でも嫌なことを抱きしめたくはありません。できるだけ自分にはよいことをしながら、人からは、「よい人だ」と言われたいのが、私たちの一番本能的な誘惑かもしれません。しかし、本当にまじめで真実な生き方をした人々の人生は、いつも苦痛との戦いでした。乗り越えようとしても乗り越えられないかもしれないし、そのまま終わるかもしれません。しかし、クリスチャンである私たちにとっては、必ず乗り越えようとする自分との戦いがないければ、今日の福音の意味、そしてマリア様の痛みや悲しみの意味を理解するのが出来なくなると思います。

皆様、いろいろ疲れることもあるのでしょう。しかし、それを恵みだと思ってください。罪がたくさんあるところに恵みがある、という使徒パウロの言葉は、ただ言葉だけのものではありません。痛みを意識しながら、痛みを乗り越えられる希望を持つこと、それがよい方法であることを覚えましょう。

ありがとうございました。